

鳥取県立倉吉東高等学校 「創立110周年記念事業」募金趣意書

謹啓 同窓生各位にはいよいよご清栄にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、鳥取県中部地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

平素より、鴨水同窓会並びに倉吉東高発展のため、物心両面にわたり格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。母校は、明治42年、県立倉吉中学校として創立以来、山陰教育界の名門として、幾多の英才を輩出し、地元地域はもとより、国内外各界の発展に大いに寄与してまいりましたが、お陰をもちまして、平成30年に創立110周年を迎えることとなりました。

母校は、中長期ビジョン「倉吉東高のかたち」に沿って、『主体的学習者の育成』と『21世紀をリードする人材の育成』を教育目標に掲げ、これからの時代を支えるリーダーの育成に力を注いでおります。特にグローバル化の進展に伴い、今後ますます重視される国際理解教育と英語教育に関しては、1997年から継続している韓国安養高校との交流や16回を数える「国際高校生フォーラム」など特色ある取り組みを実施してまいりました。

また、「文武両道」をスローガンに、県下はもとより全国的に注目される進学実績を維持しながら、部活動加入率も95%を超え、陸上、ソフトボール、卓球、テニス、管弦楽、囲碁をはじめとする数多くの運動部・文化部が全国大会への出場を果たしておりますし、野球部も平成29年度第89回選抜大会の21世紀枠中国ブロック代表に選ばれました。

一方、平成24年度末に閉科した専攻科に代わり、各位のご支援を受けて本同窓会が設立したNPO法人「倉吉鴨水館」は、中部地区のみならず県内各地より館生を得、当初目的のとおり、堅実な進学実績を挙げると共に、現役生徒のチャレンジ精神を鼓舞しております。

このように母校が発展を遂げる中で迎える創立110周年にあたり、本同窓会は、記念式典及び祝賀会の挙行、記念講演の実施、記念誌発刊といった従来の周年事業に加え、母校の更なる発展のため、特に母校「国際理解教育」充実のための『国際理解教育推進基金』設立と本同窓会設立のNPO法人『倉吉鴨水館』の教育支援を目的とした募金活動を行う旨の基本方針を平成28年度の総会で決定いたしました。本同窓会が設立するこの『国際理解教育推進基金』によって、母校主催の「国際高校生フォーラム」が一層国際色豊かなものになること、また、感性豊かな高校時代に同窓会支援により多様な国際経験を積んだ後輩たちが、将来国内外のリーダーとして活躍する姿を想像いたしますと誠に心が躍ります。

貴台におかれましては、鳥取県中部地震の傷痕も癒えぬ中、また、出費ご多端のおりから恐縮に存じますが、何卒趣旨をご理解いただき、下記による募金活動完遂に格別のご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

謹白

平成29年6月

創立110周年記念事業実行委員会
委員長（鴨水同窓会長） 大田 英二
副委員長（鴨水同窓会副会長） 近藤 健治
副委員長（鴨水同窓会副会長） 手石 幸洋
副委員長（鴨水同窓会顧問） 名越 和範
副委員長（鴨水同窓会常任理事） 山崎 一彰
副委員長（鴨水同窓会常任理事） 寺坂 和利
副委員長（鴨水同窓会常任理事） 大津 理恵
東京 鴨水 会長 福井宏一郎
関西 鴨水 会長 立光 斉
東海 鴨水 会長 八嶋 厚

記

- 1 創立110周年募金対象記念事業
(1) 『国際理解教育推進基金』 …… < 3,000 万円 >
① 「国際高校生フォーラム」支援 ② 「国際交流事業」支援
③ 短期・長期海外研修補助 ④ その他国際理解教育支援
(2) 「倉吉鴨水館」教育支援 …… < 350 万円 >
(3) 記念行事（式典・祝賀会・記念講演） …… < 440 万円 >
(4) 記念誌発刊 …… < 104 万円 >
(5) その他諸経費 …… < 606 万円 >
- 2 募金目標額 …… < 4,500 万円 >

以上

※この募金は、事業内容が特定寄附金に該当しないため、所得控除の対象とはなりません。

今回は創立100周年時作成の名簿情報を元に発送いたしました。氏名等に変更があった方々もいらっしゃるかもしれませんが、ご容赦・ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。最新の情報は同封のハガキにてご一報下さい。